

## 「人間には善を行う能力がある」

ここ広島において、間もなく G7 サミットが開催されるこの機会に、世界宗教者平和会議主催による祈りとシンポジウムが、この世界平和記念聖堂で開催されています。この聖堂を拠点にして働いているローマ・カトリック教会の一人の司教として、世界の宗教者の皆さんによる祈りの集いとシンポジウムを、心から歓迎したいと思います。また、今日、こうして平和への思いを語る機会を与えていただいたことに、心から感謝申し上げます。

この世界平和聖堂が建てられる前、この場所にあった小さな教会で働いていたドイツ人のフーゴ・ラサール神父は、1945年8月6日に被爆した一人です。今、ラサール神父はこの聖堂の左側の脇祭壇の下に埋葬されています。情け容赦なく人間のいのちを奪う戦争がどんなに大きな罪であるか、そして、原爆がどんなに非人道的な武器であるかを、身をもって体験したラサール神父は、原爆の犠牲となられた方々の追悼と慰霊のため、また、すべての国の人々の平和と友愛のあかしとして、最初の被爆地となったこの広島の地に、世界平和記念聖堂を建てたいという希望を抱くようになりました。

そこでラサール神父は、欧米とアメリカを訪問してこの願望を打ち明け、民族や宗教の違いを超えて、世界の平和を願う善意ある人々からの賛同を得、多大な寄付をいただきました。日本国内でも、当時の総理大臣や広島市長をはじめ、学者、実業家、宗教家などの協力のもとに建設後援会が設立されて、終戦から5年経過した1950年8月6日に着工し、4年間の歳月を経て、1954年8月6日に、この世界平和記念聖堂が完成しました。

この聖堂の建設は象徴的な一つの例に過ぎませんが、同じように世界各地で平和のために祈りながら、地道に活動を続けて来られた方々は、78年間、核兵器を使用しない時代を築いた隠れた力です。今、ここで行われている宗教者による祈りとシンポジウムも、民族と宗教の違いを超えて、世界の平和を願う人々の連帯の実りです。

確かに、核兵器は長崎を最後にして、この78年間、使用されていませんが、核兵器の製造や実験などの過程で、放射能による被害者を生み出し、また、放射能による環境破壊が引き起こされています。わたしたちは、広島と長崎でのヒバクシャだけではなく、このようなグローバル・ヒバクシャの存在とその苦しみに、目をつむることはできません。

「原子力の戦争目的の使用は倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反します。」——これは、2019年11月24日に長崎と広島を訪問したローマ教皇フランシスコの言葉です。現在、この地球において製造され、保有されているおよそ1万3千の核兵器

の1基でも使用されるなら、そして、もし核戦争が誘発されてしまうなら、わたしたちは共通の家であるこの地球と、自分たちのいのちが減じる危険に直面してしまいます。人類は、自ら作りだした核兵器のゆえに、自滅してしまうのです。

核保有国を含むG7サミットが広島で開催されるこの機会に、民族と宗教の違いを超えて、世界の平和を願う祈りとともに、人類の共通の家であるこの地球とそこに住むいのちを核兵器の被害から守るため、とくに核保有国の指導者たちをはじめ、核兵器の開発を進めている人々に対して、切実な叫び声を上げたいと思います。核兵器によるいのちと環境への永久的な放射能被害の非人道性を、わたしたちは見過ごすことはできません。

1981年2月25日に、この聖堂を訪問したローマ教皇ヨハネ・パウロの言葉を引用したいと思います。「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。ヒロシマを考えることは平和に対しての責任を担うことです。この都市の人びとが受けた苦しみを振り返ることは、わたしたち人間に対する信頼を再び新たにすること、人間には善を行う能力があるということ、人間には災難を新たな出発点に変える決意を抱くことができるということ」(平和アピール1981年2月25日)に信頼を置くことです。

「人間には善を行う能力があるということ」を宗教者が率先して証しするために、広島と長崎の教会は、国連で「核兵器禁止条約」が採択されてからちょうど3年目、被爆75年にあたる2020年7月7日に、核兵器廃絶を目指す広島・長崎・東京の3つのNPO団体と協力し、この世界平和記念聖堂において、次の3つの目的をもつ「核なき世界基金」を創設し、小さな努力を続けています。

この基金の目的の第一は、「核兵器禁止条約」の批准拡大を後押しする活動の支援。

第二は、世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援。

そして第三は、核兵器廃棄を目指す活動の支援、です。

人類は存亡の岐路に立たされています。78年前に広島と長崎で起こった悲劇を繰り返さないだけでなく、これ以上、グローバル・ヒバクシャを生み出さないため、また核兵器による環境の破壊を拡大しないため、宗教者であるわたしたちは、世界の平和を願う人々と連帯して、ともに歩む決意を新たにしています。現在、地球上にある1万3千基の核兵器を徐々に削減し、ついには完全に核兵器を廃絶する方向へと前進していくため、G7広島サミットにおいて、具体的な行動計画の採択を、お願いしたいと思います。

2023年5月10日

カトリック広島教区 司教 白浜 満